



森と海の自然科

森と海の自然科

2022年12月21日

宝ヶ池の野鳥観察と深泥池のご案内

担当；Cグループ 西井

東川(案内文)

京都地下鉄国際会館駅から東山(標高186m)、宝ヶ池周辺の野鳥観察と氷河期以来の動植物が今も生き続けるとともに多くの水生植物、昆虫、魚類、野鳥等がいる深泥池を散策し北山駅へと歩きます。

日時 2023年 1月19日(木)

集合 10時50分 京都地下鉄国際会館駅(終点)改札口前

持ち物 飲み物、弁当、雨具、双眼鏡、敷物、寒さ対策

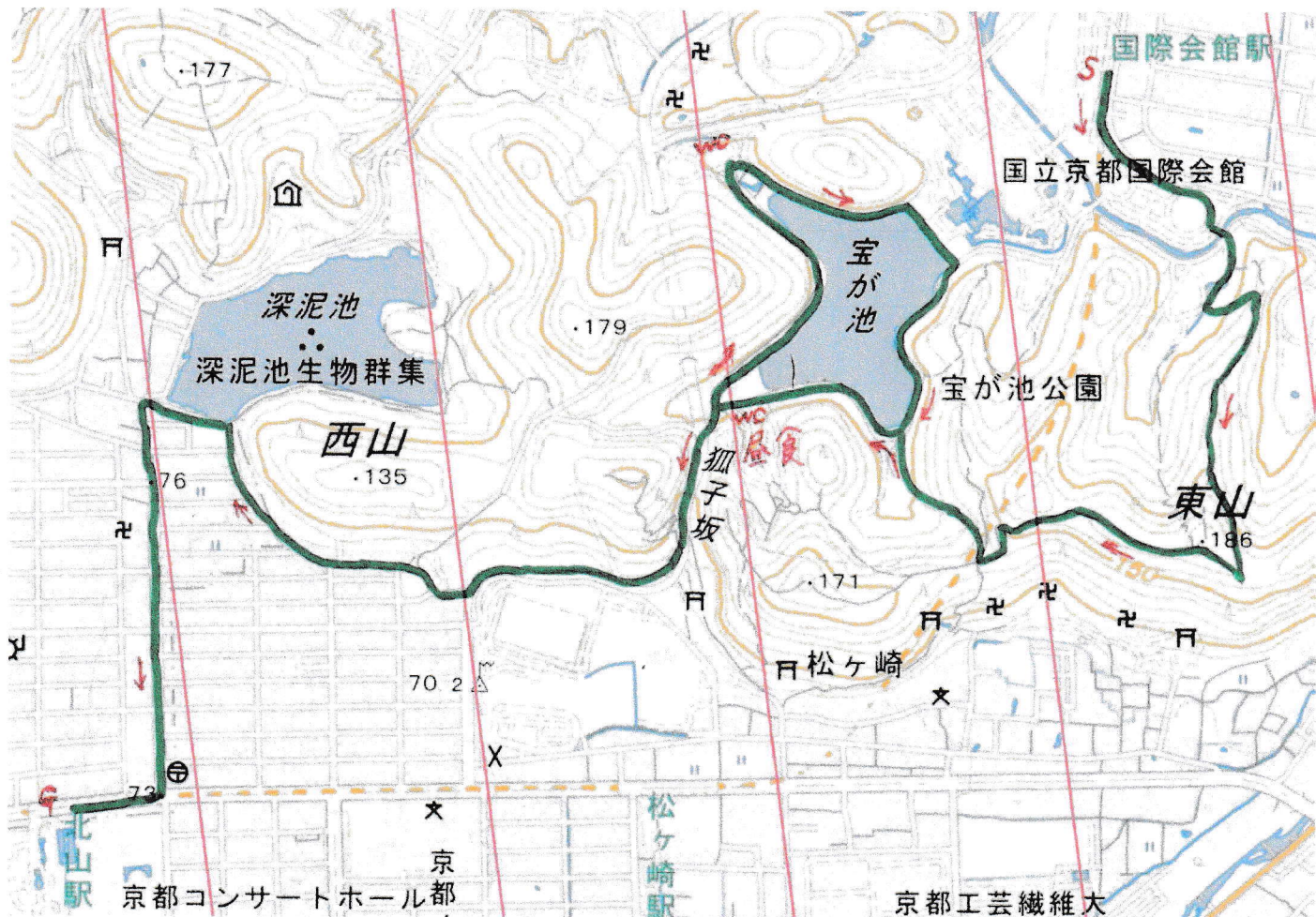
ストック等各自必要なもの(上り下り少しあり)

行程 距離;5.5km

★当日が京都府南部の雨予報 50%以上の場合は中止、前日の 17:00 以降にメールで連絡

宝ヶ池・深泥池歩行ルート図

東山は標高 186mの山登りです。東山を下りて宝ヶ池のトイレのある梅林園付近の友愛広場で昼食、その後宝ヶ池は時計回りで周回し深泥池に向かいます



参 考

宝ヶ池を中心とする宝が池公園は、比叡山と京都国際会館を借景とする都市公園です。地下鉄烏丸線終点国際会館駅の南西側に宝ヶ池はあり、駅南側の出口(5番)を出ると、すでに宝が池公園(北園)です。

宝ヶ池の目玉は何と言ってもオシドリです。冬には、20羽以上のオシドリを間近に見ることができます。池の縁の木陰で休んでいることもありますので、見当たらない時は、注意して探してみてください。池では、マガモやカイツブリ以外にもホシハジロやキンクロハジロが見られることがあり、トモエガモが飛来したこともあります。また時々空を見渡していると、近くの山から来るのか、オオタカが飛んでいる姿を見られるかも知れません。

池の周りや公園内には多くの雑木が植えられており、夏の暑い時期を除くとメジロ、シジュウカラ、ヤマガラ、エナガ、コゲラなどの小鳥を見ることができます。

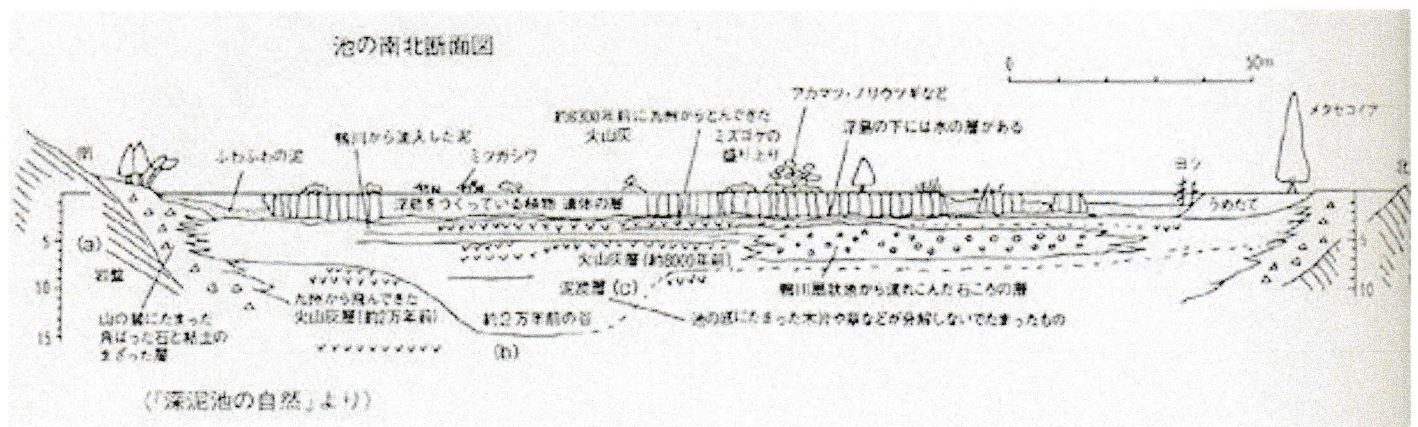
野鳥の姿が多くなるのは、冬です。フィフィという声を追って、ジョウビタキやルリビタキを探して歩くと、アトリ、イカル、そしてシメが姿を見せてくれます。平安騎馬隊施設のある憩いの森辺りでは、運がよいとキツツキ類やウソが現れてくれるかもしれません。ホテルグランドプリンス右脇の小道を通って岩倉川沿いの小さな木立の中に入ると、カワラヒワに混じってマヒワが木の実を一生懸命ついばんでいることもあります。

(日本野鳥の会京都支部の文引用)

深泥池(みぞろがいけ)は、京都盆地の北にある周囲1.5km、面積9haの小さな池です。この池には、西日本の平坦地では珍しい浮島があります。また、氷河期以来の動植物が今も生き続けるとともに多くの水生植物、昆虫、魚類、野鳥等がいます。

この池の水生植物群落を保護するため、昭和2年に国の天然記念物に指定されました。

昭和63年には生物群集全体が対象になりました。



浮島

深泥池の不思議の一つに浮島があります。池の中央に広がり、池全体の1/3の面積を占めています。この浮島の下には水の層があって浮いていることが確認されています。浮島は水温や水質の関係で、有機物の分解が遅く、植物の遺体が分解されずに堆積し、その上にミズゴケや種々の植物が生育しています。浮島は季節により上下に変動しています。夏には浮かび上り、冬は沈んで冠水します。冬に冠水する平坦部分(シュレンケ)にはミツガシワをはじめカキツバタ等が生育し、冬に冠水を受けないやや高い部分(ビュルテ)にはアカマツ・ネジキ等の樹木が成育しています。池内の植物の大部分がこの浮島上で生育し、多くの小動物もここで育っています。

(京都市情報館より)